

さいたま市シニアユニバーシティ岩槻校第9期校友会会報第3号

会長報告 関谷 ○ 会長

この会報が皆さんに配布されるのは12月中旬、全体集会・講演（岩槻の歴史紙芝居）・懇親会が開催されている頃、早いもので今季后3ヶ月です。

協議会・連合会の行事も2/17の連合会文化祭、3/2の協議会バス研修旅行、3/末のさいたまマーチのみとなりました、大いに参加しエンジョイして下さい。

今回は9月8日に行われた拉致被害者である蓮池 薫氏の講演会（東浦和校主催）に参加した感想を投稿しました。9期からは13名が参加、さいたま市文化センターの広い会場が満席の状態でした。1978年(S53) 今から53年前日本の景気も活気付きバブル景気直前の頃、当時大学生だった蓮池さんは夏休みに故郷である新潟の柏崎海岸で、夕日を眺めながら恋人と語り合っていた、突然4人の男たちに拉致され北朝鮮に連行された、北朝鮮では恋人とも別々の状態で生死もわからず、想像を絶する24年間の拉致生活を送った……………

強烈な実体験談、以前からこれらの話、記事、書物を読み・聞きしていましたが認識していた自分のギャップに驚きました。以前9期で横浜を散策しましたが海上保安庁の展示ブースで見た北朝鮮の工作船を思い浮かべました、核実験・弾道弾の発射実験等で解決策の無い状況、残された拉致被害者救済の糸口ができます様にと祈るのみ、糸口を見つけようと活動している皆さんに応援したい。「拉致と決断」（新潮社）が出版されました、興味ある方は一読されたら如何でしょうか。

協議会講演会Ⅱ

『あさが来た』広岡浅子の生涯 埼玉学園大学名誉教授 服藤早苗先生

朝ドラ『あさが来た』をどの位の方が見ていたかから始まり、ドラマの主演となる広岡浅子の生涯を日本女性史研究家の第一人者である、服藤先生が、当時の時代背景となる女性像を紹介、ドラマの中の一部を修正しながら講義をはじめられた。

明治維新による経済混乱は、女性たちの潜在的能力を発揮するチャンスでもあり、そのチャンスを得たのが広岡浅子そのものであった。

明治維新の動乱で傾いた家業の危機に直面、夫と共に石炭業に進出し、銀行や生命保険会社を設立し挽回、その勇気と豪胆さを備えた男勝りの性格で大阪実業界の女傑として有名。

一方、日本女子教育の実情を憂えその改善の必要性を痛感していた彼女は、日本女子大学創立発起人となり同校を弟と共に生涯物心両面から支援した。

日本中世史家・細野善彦氏は、中世の金融業者は女性の方が多かった。現在でも、夫の給与をしっかりと管理して、ヘソクリを貯めこんでいる女性も多いと聞く。算盤勘定が得意な女性は歴史的にも多いとのことでした。質疑応答の中で我が9期生から朝鮮慰安婦問題について「何故いつまでもごたごたが収まらないのか」との質問があった。服藤先生の答えは「はっきりとした証拠が存在しているので今は静かに見守るしかない」といった趣旨の回答であった。



9月14日水曜日 当日は、台風14号の影響を気にしながら企画担当の坂本さん、部長の小野さんは、天気図とにらめっこ、実施か延期かに悩んでおられたようでしたが、天気予報士より正確に降雨なしと判断実施となりました。

参加者20名は、いつものように、大宮駅豆の木に集合し、JR大宮駅より高崎線行田駅へ行田駅前より市内循環バスに乗り、車中坂本さんの愛妻、内田副会長の地元とかで、案内も例の通り楽しく40分間あっという間に目的地に到着。

さきたま古墳公園に隣接する忍城主松平家の菩提寺天祥寺墓所でお参りし、古墳群の中へ右手に黄色コスモスの見える二子山古墳そして左手は將軍山古墳、ここから折り返して稲荷山古墳へ健脚者は階段を上りました。続いて、さきたま史跡の博物館へここでは、「金錯銘鉄剣」を始めとする埼玉古墳群の出土品が多数展示されていましたが、圧巻は「金錯銘鉄剣」の金文字の鮮やかさでした。涼やかな緑道の途中、「埼玉県名発祥の碑」が立っていました。ここを後にして、昼食会場へ、食事は盛りだくさんのためシニアには一寸多すぎたかな？ 行田市水上公園を散策しながら「忍城址」は、かつての忍城にあった櫓をモデルに再建されたもので、現在は、行田市郷土博物館として開館されている。忍城址を後に、吹上駅行バスに乗り、予定通りの列車にて大宮駅に無事到着解散でした。雨用の傘は、日傘となり散策にはうってつけの天候で落伍者もなく、およそ20,000歩の散策を完歩、シニア世代9期の脚力驚きました。天候を心配し寝ることもままならぬ幹事さん、念力により散策にはうってつけの天候となりました。



「秋の日光路」散策

5月に新緑の滝尾の路・憾満の路を尋ねたが、秋の要望があったので11月2日に9名で紅葉を期待して向かった。行程は前回と同じコースで初めての参加者が二人。寒いとの予報であったが丁度頃よい気候で少し早い黄色や赤の景色を堪能し、行きはスペインの方と帰りはルクセンブルグの方と席が一緒だった外国人と国際交流の場があり、帰路の車中は程良い(?)宴席で盛り上がった。私は都合8回目のガイドであったが、これからも幾度かは訪れる機会もあることであろう。幾度行ってもとても良い所だ。何時も同じ所では興味も薄れるので、次回は少し登山を兼ねて皆が走破出来る場所を提案したい。官の倉山や天覧山も近くて良いし、少し足を延ばせば足利の大小山などがお勧めだ。(文責 瀧田 ○○)





熊本城の雄姿

私は九州の熊本県に生まれ、6人姉妹で幼少期から青春時代を過ごしました。自然が豊かで私の大好きな「ふるさと」です。

ところが2016年4月に大地震により一変しました。その夜に岩槻の友人からメールで「お姉さんには怪我はありませんでしたか？」とか「地震は大丈夫でしたか？」の連絡が有り、すぐにテレビをつけてみると大事になっているのに震えました。交通手段は寸断され、移動ができなくて熊本行きのチケットが取れたのが一週間後ようやく取れて帰省する事が出来、空港に着いた時もそうですが、車の移動中にあたりを見回すと、震災の大きさに相乗以上に悲惨なものでした。すでにボランティアの方々が全国から来て活動されまして有り難く思いました。私も岩槻を出発する時、何かボランティアが出来ないかと思い準備して向かったのですが、一人の力では何も動くことが出来ず残念でした。

6月(2回目)に熊本に向った時は、県の象徴である熊本城を自分の目で見ようと訪れてみました。石垣の近くまでゆくとテレビの画面で見たよりも被害の凄さに正直、辛いというか泣きそうになりました。そこにもボランティアの方々が観光客に丁寧に現状の説明をされて、石垣の崩れた石、ひとつひとつに数字を書き込む作業をしていました。震災前の城を見た人も見ていない人も、もう一度足を運んで見てほしいと思います。復元するまで20年余りの歳月がかかるそうです。

「一緒に泣いて、一緒に笑って、一緒に歩こう」

真田丸 バスツアー

午後からの天気が心配される中、史跡めぐりクラブの上田城跡研修旅行に大勢の皆さんが参加。朝から我が校友会迷司会者坂本節がさく裂。バスの中は一日中「坂本ワールド」に包まれていた。

バスの中では文化祭の合唱の過酷な練習が有り、高速は順調で10時半には上田に到着。上田は2班の中澤さんの出身地で彼の通った名門県立上田高等学校にも立ち寄り、当時に思いを馳せた。最初に訪れたのが上田城跡公園。

ここには400年前に築城された上田城の櫓閣が3つ残されており、一つは築城そのままであるが他の二つは、一端遊郭に売却されたものを買い戻し、戦後になって城内に建て直したとのこと。大河ドラマで「真田丸」をご覧になられておられると思うが、「信州上田真田丸大河ドラマ館」が城内にあり、そこを見学。真田丸の世界を体感する事が出来た。昼食後、真田氏歴史観に移動。時代を掛けぬけた真田氏ゆかりの品々を堪能。真田氏三代の歴史を垣間見ることができた。中でも大阪夏の陣図屏風は圧巻であった。少雨の中、帰路に就いたが、折角のお楽しみのビンゴゲームが機械の故障か、はたまた誰かの呪いか不明ではあるが出来ず、バス会社から多大なる詫びの品が届いたか否かは不明である。企画

いただいた史跡巡りの皆さんに心から感謝するとともに、皆が元気で参加できることを共に喜びたい。(文責 瀧田 ○○)



文化祭・演芸発表会

さいたま市シニアユニバーシティ 岩槻校校友会協議会

今年度シニア大学校友会主催の文化祭が展示部門と演技部門が別々の会場で開催された。演技部門には我が9期は合唱と体操を披露した。数ヶ月前から特訓を重ね、シルバー合唱隊は見事な混声合唱を、又、体操では三品指導員の特訓の成果で観客を魅了した。昨年度はマーダダンスで最高の演技であったが、今回もそれに劣らぬ演技で9期の存在を高めたと自負している。各期とも練習を重ね、勝るとも劣らぬ演技を競い合った。展示部門は本丸公民館で我が9期から11個の出品があり、特に手芸部門では見事な作品が並べられ日頃の腕を披露していた。

今回の9期主幹による文化祭は、実行委員並びに3ヶ月間にわたり合唱と体操に参加された方及び作品を出品して戴いた方など、多くの皆さんの協力により成功裏に終了することができました。今後とも、健康には十分注意して皆様のご協力をお願い申し上げます。



9期シルバー混声合唱団 指揮 澄川 ○○ 「七つの子」「上を向いて歩こう」「高校三年生」



9期女性ダンシングチーム 指導 三品 ○○ 「三百六十五歩のマーチ」華麗なる演技を披露



9期男性軍団 指導 三品 ○○ 「錨を上げて」 何とかあまり間違えずに頑張りました

展 示 作 品 集 於 本 丸 公 民 館

今年の出品は10名の会員から11点の作品が出品された。特に手芸部門においては日頃の力作が披露され、来客の目を引いていた。貝を使った吊るし雛はアイデアが面白かった。



「花の物入れ」 岡本 ○○

「野菜」 渋谷 ○○

「ひたち海浜公園」 澄川 ○○



「木目込パッチワーク」 増田 ○○

「バッグ」 濱野 ○○

作品に見入る来客



「吊るし貝かざり」 石塚 ○○

「秋へ」 樺木 ○○

「お月見のタペストリー」 田村 ○○



「座り心地は！」 大塚 ○○

「日光 並び地蔵」 瀧田 ○○

「秋田 竿灯」 瀧田 ○○



昭和25年（1950年）4月、戦後教育制度改革の新制高校1期生（上田高校51期）として、過日皆さんに見て頂いた校門をくぐり、純情で多感な青春時代の幕が開いた。広報編集委員長の滝田さんから高校時代の思い出で原稿を依頼され、脳裏に焼き付いている筈の思い出を1枚1枚はがしながら記憶を辿るが、高齢の為か記憶の所々に虫食いが有り、思うように一幅の絵は画けず、二つの事を記す。

一つは、例年実施する全校生徒男子1,100余人で行う運動会での棒倒し、紅白に分かれた両軍が相手側3本の棒を如何に倒すか、若き血が燃える圧巻の一時であった。運動会前に攻撃隊、守備隊、本丸（棒）を守る守備隊等の配置を決める各組代表による作戦会議を開き、智謀と策略を用い戦略を練り、丁度眞田軍が徳川軍に対戦するような感覚で当日を迎えたものだった。3年生の時私は攻撃隊の1人として相手の守備陣をかい潜り、本丸にたどり着きジャンプ一番棒に飛びついたが棒に達する事は出来ず、瞬時に守備隊の餌食となり叩き落された記憶が今も蘇って来る。毎年勝敗はつかず引き分けだったと記憶している。

事を成就させるには団体の中でそれぞれの持ち場が有り、個の力を上手く引き出し、相乗効果を生む事の大切さを習ったような気がする。

二つ目は学友との絆。信州は山国で周りには名のつく山々が聳えている。高校3年間の夏休みに仲間と北アルプスの縦走を始め、八ヶ岳、浅間山、妙高などへ足を運んだ。登山は体力と忍耐の勝負であると共に、決断力が欠かせない。山小屋で宿泊するお金もないし、今のように立派な装備が有るわけではなく、旧式なテント、シラフの代わりに毛布、飯盒炊飯の材料等を担いで登ったものだった。今では考えられない山野での雉うち（わかりますか）も経験した。山小屋に近い場所にテントを張り、食事の準備（飲料水は山小屋から購入）、翌日の登山ルートの研究、天候のチェック等個々人に任務が与えられる。

ここで学んだことは、物事に対しての義務と責任それに協調性だ。もし一人でも義務を怠たり不協和音を発すると、組織全体のバランスが崩れ、思わぬ落とし穴に落ち込む。組織はリーダーの力以上には大きくならないと言われているが、突発場面でリーダーの判断と決断力が如何に大切かを痛感した。青春の最中仲間たちと苦楽を共にしたご褒美か今でも彼らと深い絆で結ばれている。

文武両道、質実剛健を校訓としての学び舎の3年間、多くの事を学び後の人生に役立つことが多々あった。

法句経の教え 十ヶ条

奈良 薬師寺 執事 大谷 徹契師 講話より

限りある命を無駄に使うな
人生は自己責任の他にはない
大切なのはあなたのやる気
学ばない人は成長もしない
覚悟の無い道は行き止まる

警告

比較は自省の為に使う物
言葉を荒げれば敵が増える
憎しみは苦しみを深くする
やり直しに躊躇は要らない・・・**激励**
礼儀と尊敬が幸せを育てる・・・**幸せの基本**

忠告

大谷 徹契師は「正直に言えば、現在仏教は私たちの日常生活からずいぶんかけ離れた所にあると言える。その理由は、お釈迦様の教えが長い時の中であまりにも複雑になり過ぎて、仏教は難しいと言うレッテルが貼えられてしまったのではないか。本来釈迦の教えは我々の身近にあって迷いや悩みの解決法であって生きる指針として存在するものである。よりよい生き方や幸せのヒントとなるように伝えることと、学ぶことが僧侶としての責務である」と諭されていた。

法句経とは2500年前に釈迦が弟子に教えた話を口伝で伝えた話で、これが経として最も古いものである

さいたま市シニアユニバーシティ-岩槻校友会協議会の文化祭に参加して

9期実行委員長 前澤 ○○

去る、11月9日～11日及び13日間において文化祭が開催されました。今年は、会員数の関係から、作品展示は従来の本丸公民館で、演芸発表は市民会館いわつき大ホールでの2会場で実施し、かつ実行委員会の主催は9期が担当することになり関谷会長初め12名の実行委員が、総務、演芸、作品展示及び広報各班の責任者となり運営にあたりました。

今回の作品展示の来場者は3日間で583名、演芸で423名計1006名の来場者であり大変うれしく思っております。

9期の作品出店数11作品で2番目に多い出展でした。有難うございました。また、演芸での一つはコーラスを。これは今回9期が幹事のため全員参加を目標にしましたが33名に留まりました。

最初は、選曲をどうするか、伴奏は必要か、指揮者は必要かなど、担当班の5・6・7班で検討した結果、曲はCDを利用し、指揮者はセンスの良い澄川さんをお願いし、練習は9回ほど実施しました。

最初は、遠慮がちの声でしたが、最後の方は腹から声を出し大合唱で終わり、本番では満足の内容だったと思えました。

もう一つは、男女別々に行進曲を三品さんの指導のもとに9回練習を行いました。男性は両手に旗を持って踊りましたが、旗は大変綺麗でしたが、足元がおぼつかなかったような気がしました。(ムリモナイコトデスネ!!)女性も、チャーミングに足元もしっかりした踊りでした。また上着は昨年利用したTシャツを着用し大変工夫がなされていたことが印象的でした。

今年も会場の確保に困難を期しましたが浪江さんの協力により確保でき有難うございました。なにはさておき参加者全員が一致団結し、より一層仲間意識が芽生え、やはり参加してよかったと痛感したところです。



文化祭・演芸発表会
さいたま市シニアユニバーシティ 岩槻校校友会協議会



関谷文化祭実行委員長開会宣言



坂本総合司会



フィナーレ 「四季の歌」 全員合唱